

来自“友爱电话”的故事

中国帰国者支援・交流センター面向下述人員开展“友爱活动”：年齢大约在60岁以上、因身体状况不理想、或不谙熟日语而在日常生活中很少与近邻进行交往，以至时常闷在家中打发时日的归国者。活动内容：通过电话、或根据需要派遣由各都道府县所推荐的协助人员上门走访，在对上述归国者的生活近况进行了解的同时，听其诉说烦恼、为其排忧解难。此外，我们正不断地致力于把在这项友爱活动中了解到的、大家提出的各种要求及关心事宜等，反映到中心所开展的其它活动当中，以使支援事业更加充实。

在此期里，我们要为大家介绍一位友爱活动的担当人员讲述的、关于一位老大妈故事。



这个故事发生在大雪纷飞的东北。有一名归国者在她回到日本刚好一年半的时候，不幸失去了丈夫。之后她一直一个人孤苦伶仃地生活着。这位老大妈的子女先后离开她移居到了外县。由于年势已大，再加上眼睛看不见，所以大妈时常向我透露渴望搬到子女身边去的想法。大妈的心情我非常理解，可是我只能一遍又一遍地听她诉说，却无法从真正意义上帮她做些什么，这让我感到心有余，而力不足。

开春后的某一天，老大妈告诉我。她渴望搬到子女身边的愿望终于实现了。在欢喜欣慰的同时，我又担心大妈年势太高、眼睛看不见，而她的女儿和儿子刚来日本不久，基本上不会说日语，所以搬家的事，能否顺利进行。

「友爱電話」の現場から

中国帰国者支援・交流センターでは概ね60歳以上の方で、体調が良くなかったり、日本語が十分にできないために普段なかなか近隣との付き合いができず、自宅に引きこもりがちの方などを対象に電話や、必要に応じて各都道府県が推薦する協力員による訪問を行い、これらの方々の近況確認をするともに悩み事などの話し相手になる友爱事業を実施しています。また、この友爱事業を通じて得た皆さんの要望や関心事などをセンターの行っている他の事業の充実にもつなげられるよう日々努めているところです。

今回は、友爱事業の担当者がある年輩の婦人から伺ったエピソードの一つを紹介したいと思います。

東北の雪深い所にお住まいの方の話です。その方が日本へ帰国して一年半を過ぎた頃、ご主人が亡くなられて、それからはずっと一人暮らしをしてきました。子供達は既にそれぞれ他県に移り住んでいます、高齢なのと目が不自由なことから、子供のそばへ引っ越ししたいと常々話をされていました。本人の気持ちはよく分かりましたが、お話を伺うことはできても、現実的には何のお手伝いをすることもできないことで私自身の無力さを感じておりました。

春のある日、ご本人からようやく子供のそばへ引っ越しすることが決まったとの知らせを聞きました。うれしい反面、ご本人が高齢で目が不自由であること、また、娘さんと息子さんは日本に来て日が浅く日本語もほとん

不过，事后大妈告诉我在搬家的前一天，她的女儿和儿子前来大妈的住处，帮助她收拾东西，整理行李。并且搬家那天，当地政府社会福利机关的生活担当员也赶来为大妈送行，而使她最终顺利地搬到了新的住地。在搬家过程中需要换乘数次电车，听说每次换车，接到生活担当员联络的车站工作人员，都专程把大妈带到了她要换乘的站台。

老大妈多次向我讲，非常想向工作态度热心细致的生活担当员和各个车站的工作人员，表示衷心的感谢。我也要向他们所提供的支援和协助，表示诚挚的谢意。(高 / F)

ど分からないので引っ越しがうまくできるかどうかも心配でした。

ところが、引っ越しの前日に娘さんと息子さんが来てくれて、引っ越しの準備とあと片づけをやってくれたのだそうです。また、当日には、役場のケースワーカーさんが見送りに来てくれただけでなく、そのケースワーカーさんのお陰で、引っ越し先までスムーズに行けたと知らせてくれました。移動の際には何回か電車の乗り換えがりましたが、ケースワーカーさんからの連絡を受けた各駅の駅員さんがそのたびにわざわざ次の電車のホームまで連れて行ってくれたそうです。

きめ細やかなやり方で親切に対応していただいたケースワーカーさんを始め、各駅の駅員の方々に心から感謝したいと、ご本人から何度も聞かされました。私もこの多くの方々の支援の連携に心から感動しました。(高 / F)